

協働事業評価書

事業名「越後山パークライフプロジェクト」

事業主体：越後山・緑まちづくり推進連絡協議会
担 当 課：都市整備課
評 価 者：協働推進懇話会（委員 7 名）
評 価：◎他のモデルとなりうる ○適当である △工夫が必要

評価項目	評価 【◎○△】	評価内容	評価 【◎○△】	コメント
①事業の評価	◎ 0 人 ○ 7 人 △ 0 人	事業スケジュール	◎ 1 人 ○ 5 人 △ 1 人	■一定の成果は得られているが少し、視野が狭くも見える。より広いニーズを捉えることも必要。 ■一般に地域コミュニティが希薄となる中、公園を使ったコミュニティづくりの活動を多様に展開できたことは、他のモデルとなりうる要素をもっている。 ■多くの活動を住民が担って、あたらしいつながりを立ち上げる気概に満ちた事業であったと感じた。活動予算がその気概で格段に低くなったのは目覚ましかった。 ■地域の公園が拠点として活性化に役立つ様子があり、意義深い事業だったと考える。 ■スケジュールどおりで、プラスアルファもあり、評価したい。
		事業成果	◎ 2 人 ○ 5 人 △ 0 人	
②協働の評価	◎ 0 人 ○ 6 人 △ 1 人	プロセスの積み重ね	◎ 1 人 ○ 4 人 △ 2 人	■地元農家や様々な団体が参加して、公園を使ったイベントを展開できたことは良かった。参加者アンケートからは、30歳代、40歳代のファミリー世代が多く参加していることがわかり、こういった世代がコミュニティの楽しさを知ること、将来にわたって地域コミュニティが継続していくことを期待したい。 ■団体と担当課の間で、目的共有や役割分担、日常的な情報交換が十分になされたとはいえず、協働したことの効果があまり見えない（特に、担当課が実感しているように思えない）。 ■自治会間の交流が図れたのがとても良かった。 行政と実施主体の市民の合意形成、役割分担が不明確、このあたりは仲介の役割を果たす機能の不十分さも感じる。 多くの地域住民は協働の原則などへの理解も十分ではなく、それらの意味を理解してもらいながら、その自主性を尊重することは実はとても難しい。この事業がきっかけで市民と行政に齟齬が生まれた部分があったとしたら、それが実は今後につながるマイナスの成果になってしまう可能性もある。それらの課題をしっかりと見直して実施体制について検討が必要。 ■団体と担当課で評価が分かれるところがあり、情報共有がより進むと良いと思う。 越後山自治会、緑自治会が主体的に参画していることが良い点だと思うので、公園の活性化が末永く継続されるような仕組みづくりにつながることを期待したい。 ■地域住民に多く参加してもらうなど、市民が主体的に参加していくきっかけとして評価したい。一方で、団体と市の意思疎通に関する課題や、団体の事務局と自治会長の関係がいまひとつ見えづらい点があったように思う。地域にとって大切な公園になるよう、今後のますますの活動に期待したい。 【提案】 ■この地域ならではの主体が集まり、協働を実現している事例と考えられる。さらなる成果に向けては今後の中期計画のようなものの明確化が必要ではないか。マルチステークホルダーでそれが実現すると良い。
		事業の広がり	◎ 3 人 ○ 4 人 △ 0 人	
		市民満足度の向上	◎ 1 人 ○ 6 人 △ 0 人	
		協働基本原則	◎ 0 人 ○ 3 人 △ 4 人	
		協働の成果	◎ 1 人 ○ 4 人 △ 2 人	
③総合評価 上記①、②以外のコメント (団体や市へのアドバイスを含めて)				■地域コミュニティが継続するカギは、活力のある小さなコミュニティがたくさんあり、そのコミュニティ同士がつながっていることだと考える。小さなコミュニティ同士のコミュニケーションが図られるような EM 会であり続けてほしい。また、地元農家や企業の協力で大幅な経費節減が図られたが、引き続き協力が得られるような関係を築いてほしい。 ■数多くの活動が展開され、その自主的な活動の活発さはすばらしいものだった。その上、材料費等の寄付から費用対効果はとても高いものとなった。実施主体の市民の熱意によるものだったと思う。一方で、行政との合意形成の課題、事業の担い手の手間の大きさによってたいへんだった、という感想が残り、今後の担い手の発見、事業継続性の課題、などが透けて見えた。まちの立ち上げなので、今回特別という色合いもあるだろうが、やはり今後なんらかのフォローがあるといい。自治会などとの協働で起こりやすい課題も見えたように思う。 ■越後山中央公園はできたばかりで周辺の住民もこれから増加していくことと思うが、この公園が中心となって地域住民のコミュニケーションの場となるよう、継続して展開していただきたい。